

## 家づくりの要である住宅設計を考えてみよう（その15）

### ～ 階 段 ～

今回は間取り上、大きくプランニングに影響を与える階段について考えます。

#### 1 位置について

生活スタイルや玄関の位置などを考慮して計画します。

##### (1) 玄関ホールに設ける場合

メリット：吹き抜けなどを利用することで玄関を広く見せられる。

デメリット：お客さんの動線と2階の家族動線が重なってしまう。

##### (2) 廊下に設ける場合

メリット：お客さんの動線と2階の家族動線が重ならない。

##### (3) リビングなどに設ける場合

メリット：家族の行動が把握でき、吹き抜けなどを利用することで常に家族の気配を感じることができる。

デメリット：部屋としての落ち着きに劣る。

階段が煙突状になることで熱などが上階に逃げてしまう。

#### 2 構造について

安全性を確保するために、蹴上げの高さと踏面の幅、手摺の高さ、階段の幅など建築基準法上の決まりがあります。そのことを踏まえて、床仕上げを滑らない材料にしたり、明るさを保ったりすることが大切です。

建築基準法：蹴上げ 230 mm以下、踏面 150 mm以上

階段幅：一般的には廊下と同じ

階段長さ：1.5 ～ 2 間

#### 3 種類について

##### (1) 直階段：一方向に直線的に上がる階段

・面積は少なくてすむが、一方向に限定されるため間取りに制約を受ける。

##### (2) 折り返し階段：途中で踊り場を設け、U型に方向を変えて上がる階段

・踊り場の分だけ面積が多く必要だが、安全性が高い。

##### (3) 曲がり階段：途中で踊り場を設けて角度を変える階段

・1階の上がり口と2階の下がり口の方向を変えることができる。

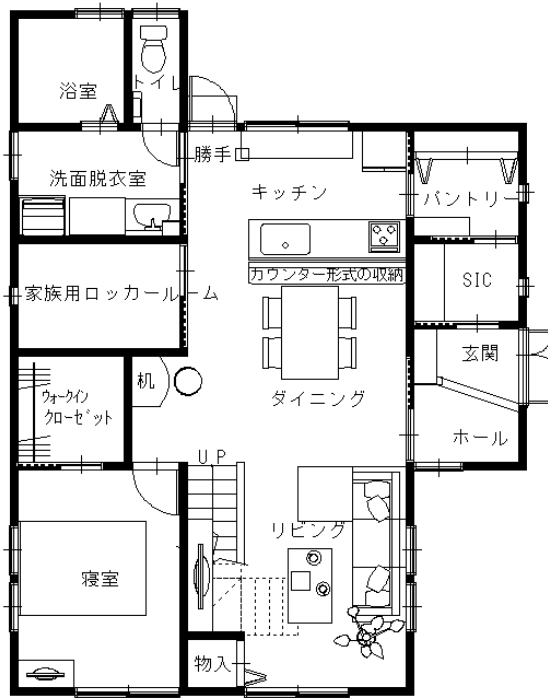
##### (4) 回り階段（らせん階段）：中心に柱を立て、そこから片持ち式に梁を出して踏み板を支えた階段

・デザイン性に富み、面積は少なくてすむが、昇降がしづらい。

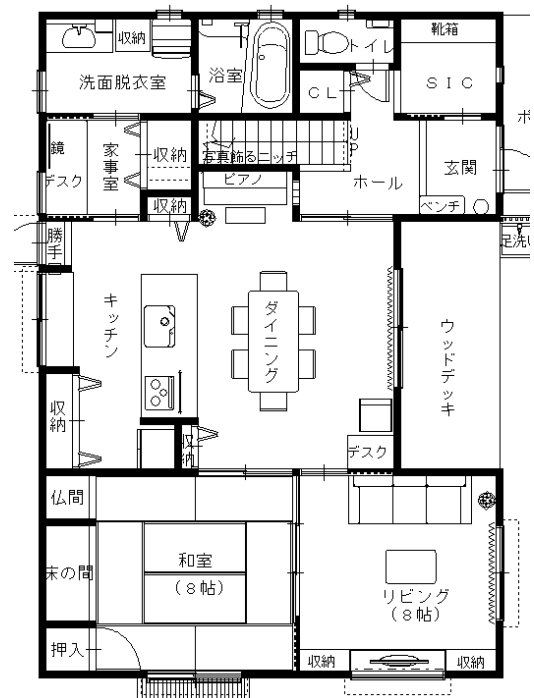
#### 4 デザインについて

① 箱型階段：踏板の下に蹴込み板を設けるタイプ

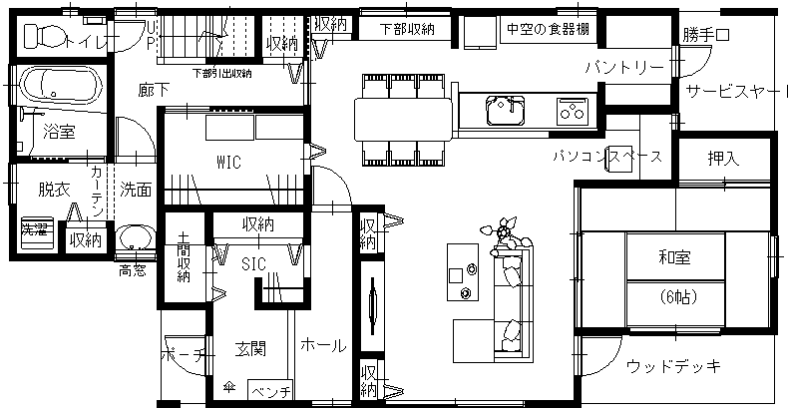
② オープン型階段：踏板の下に蹴込み板を設けないオープンなタイプ



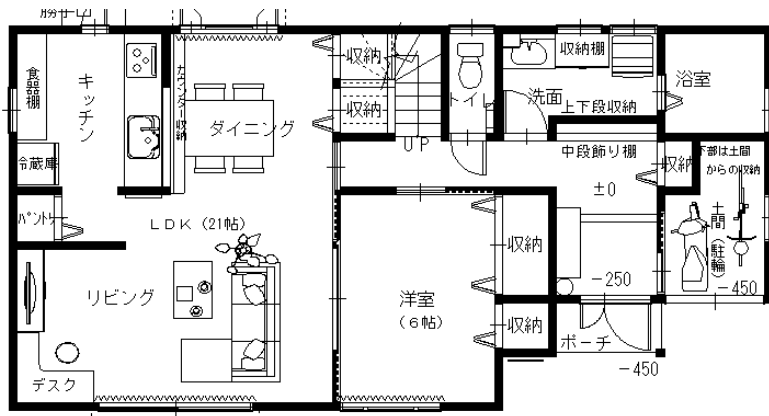
リビングに階段があるタイプ



玄関に階段があるタイプ



廊下に階段があるタイプ (リビングアクセス階段)



廊下に階段があるタイプ